□作品紹介□

―賛助作品―

技術顧問　寺本蒼玄先生



『松間新月を照らす（羌虬緑）』

「松間照新月（松の間から三日月が出た）」

明末ロマン派の傅山の行を押し流す力強さを表現してみました。



『體適（白楽天）』

「體適（からだ[身體]に適すること）」

清末の趙之謙の雰囲気で力強く堂々と仕上げました。

一、浅野彰浩

臨書　楷書『魏霊蔵薛法紹造像記』全紙

「魏霊蔵薛法紹夫霊跡誕遘必表大之迹玄功既敷亦標希世之作自雙林改照大千懐綴暎之悲慧日潜暉昏生衒道慕之痛是以應眞悼三乗之靡憑遂騰空以刊像爰暨下代茲容厥作」

像に彫られた力強い造像記の文字を自分なりに筆で表現しました。



二、東佳央里

臨書　かな『升色紙　伝藤原行成筆』

「はるゆきのふるひかきくもりふゆにおくれてふるゆきのはるともみえで今日くらしつゝ（以下略）」

以前色紙作品として挑戦した升色紙を、秋冬の歌を選んで今回は軸作品にしました。升色紙のもつ細い線の美しさ、そして細い線が細いからこそ引き立つ太い線の美しさを表現できるように頑張りました。



三、天艸開

臨書　行書　空海『風信帖』半切

「風信雲書。自天翔臨。披之閲之。如掲雲」

空海の風信帖です。字の繋がりを意識して臨書しました。「風」の字に納得せずに苦戦しましたが、まとまりよく書けたと思います。



四、天艸開

臨書　楷書　褚遂良『雁塔聖教序』半切

「大唐三蔵聖教序。太宗文皇帝製。蓋」

褚遂良の雁塔聖教序です。字の大小を揃えるのに苦心しましたが、一字一字をつめて書くことができ、良い経験になったと思います。



五、伊田唯果

臨書　行書『李思訓碑』半切

「而聞。己十有四。補崇文生。擧經明行脩」

生のたくましさに惹かれてこの作品を選びました。書道初心者で難しいことばかりでしたが一生懸命練習しました。未熟な作品ですがご批評のほどよろしくお願いします。



六、植島　寛之

臨書　隷書『史晨後碑』半切

「空府竭（ツくす）寺咸（カン）俾（ヒ）來觀幷（アワせる）畔（ハン）官文學先生執事」

僕は楷書しかできない人ですが、敢えて隷書を書くことで何か見いだせればと思い、隷書に挑みました。楷書チックな隷書になるだろうなと思っていたのですが、ところがどっこい、妙にかわいらしくなってしまいました。



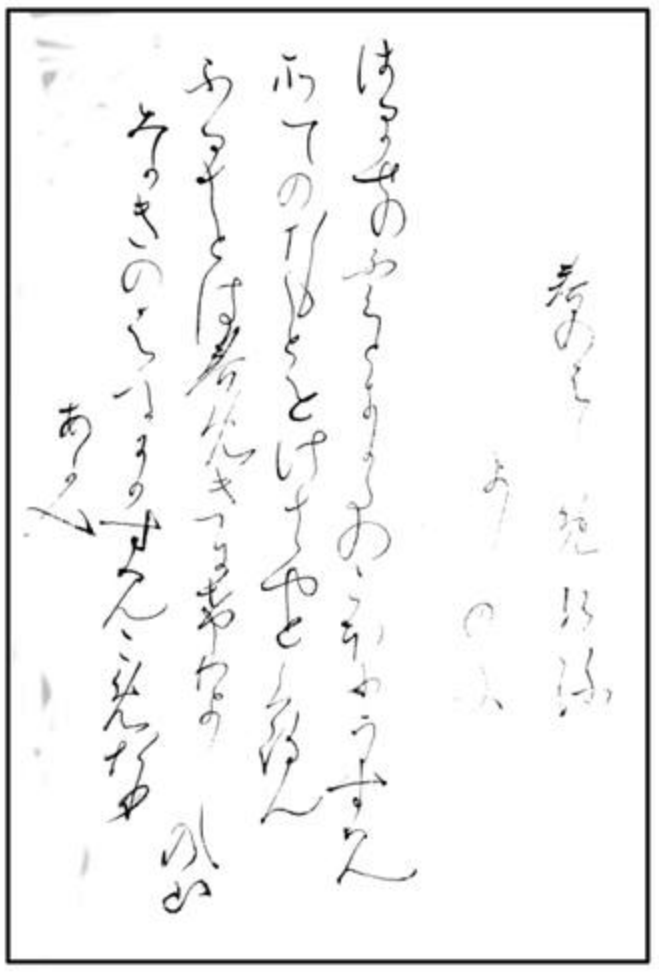
七、内村実穂

臨書　かな『香紙切』

「春のは(者)じめ(免)こ(古)ろ(路)よしのぶ

はるか(可)ぜ(世)のふく(久)とき(支)が(可)た(多)のこほ(保)り(利)うすみ」

張りがあり鋭いけれど丸みの柔らかな線。自由にクルクルと動くのに力強さもあわせ持つ線。そんな雰囲気に惚れました。自分の手から作り出すことはとても難しく、けれどその練習はとても楽しいです。



八、大泉　陽輔

臨書　隷書『乙瑛碑』半切

「請置百石卒史人主守廟直須報謹」

互いに主張し合う作品が林立する会場で、寒いほど静かな作品がただ一点凛と佇んでいる。書道歴半年の素人が希求するあまりにも浅はかな理想です。



九、小野愛実

臨書　行書　文徴明『緑陰帖』半切

「物凋零盡獨有荅松領歲華江城秋」

文徴明の、勢いのある美しい字形が好きです。まだまだ未熟な作品ですが、ご批評よろしくお願いします。



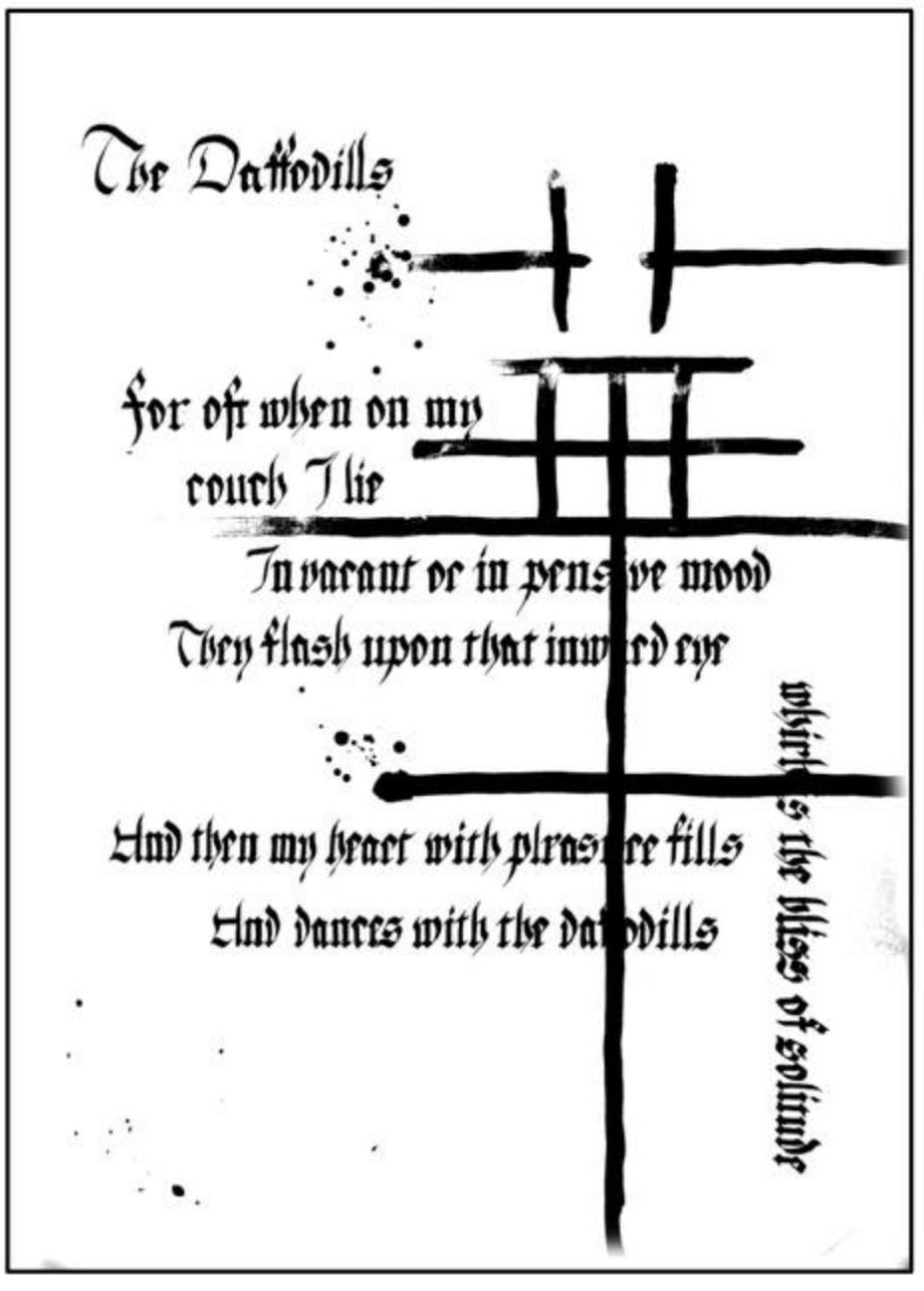
十、大庭諒介

創作　Fraktur　『華』　781×1051　287×378　(mm)

「華　The Daffodils　For oft, when on my couch I lie/In vacant or in pensive mood/They flash upon that inward eye/Which is the bliss of solitude/And then my heart with pleasure fills/And dances with the daffodils.（日本語訳：水仙　心うつろに、或いは物思いに沈みて、われ長椅子に横たわるとき、独り居の喜びなる胸の内に、水仙の花、しばしば、ひらめく。わが心は喜びに満ちあふれ、水仙とともに踊る。）」

情景を嘆くことなかれ。追憶の〝華〟は咲き誇るべし―

隷書の素朴さと英字の絢爛さを掛け合わせ、新たな作品となることを目標とした。華の直線的な造形と英字列が群となり、交錯していく。そのことが如何に空間に動的変化を与え得るのか。色彩と装飾は詩文のイメージから創作した。英語詩は *William Wordsworth*『水仙』より抜粋。

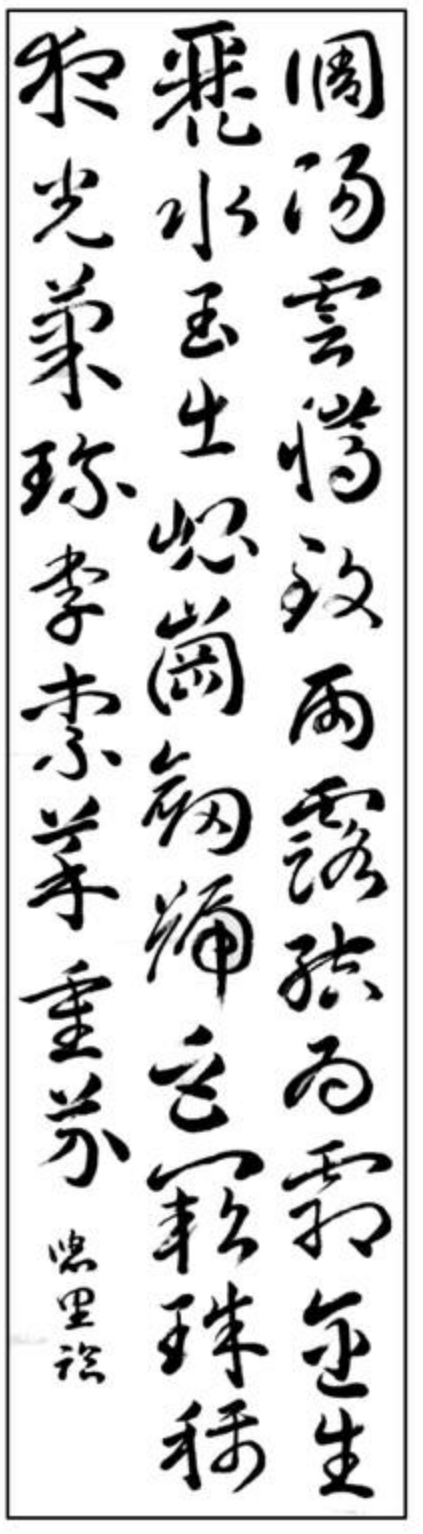


十一、菊池悠里

臨書　草書　智永『関中本千字文』半切

「…調陽。雲騰致雨。露結為霜。金生麗水。玉水崑崗。劒號巨闕。珠稱夜光。菓珍李柰。菜重芥…」

智永の千字文の草書部分に挑戦しました。整った字形は保ちつつ、全体として退屈な作品にならないように、構成や文字の大小で変化を持たせるよう工夫しました。たくさんのアドバイスを頂いてできた作品です。



十二、木谷亮太

創作　前衛『破・生』全紙

「破生」

大きな嵐のなか、つぶれそうにながらも確かにある小さな命を表現しました。破を転じて生と為す、そんな願いを込めて。



十三、小松聡子

臨書　書体　行書『李思訓碑』半切

「考中上又更右武衛大将軍且師丹」

「大将軍」の格好よさに一目惚れしました。力強さと美しさを表現したいと思いながら書きました。ご批評よろしくお願いいたします。



十四、近藤和歌子

臨書　行書　董基昌『邠風図詩巻』半切

「帛菽粟真文字委宛驚開先代蔵詩」

パンフレット用作品提出締め切り直前に法帖を変えることに・・・。見せ場の創り方もわからず書き込みも不十分ですが、線や字のつながりを意識しながら書くのは楽しかったです。今後は作品の創り方も学びながら、計画的に書いていきたいです。



十六、佐藤綾美

臨書　行書　米芾『賀鑄帖』半切

「再啓賀鑄能道行樂慰人意玉筆格十」

力強い行書を書いてみたいと思って挑戦しました。起筆や文字の傾き加減を表現するのに苦労しました。ご批評よろしくお願いします。



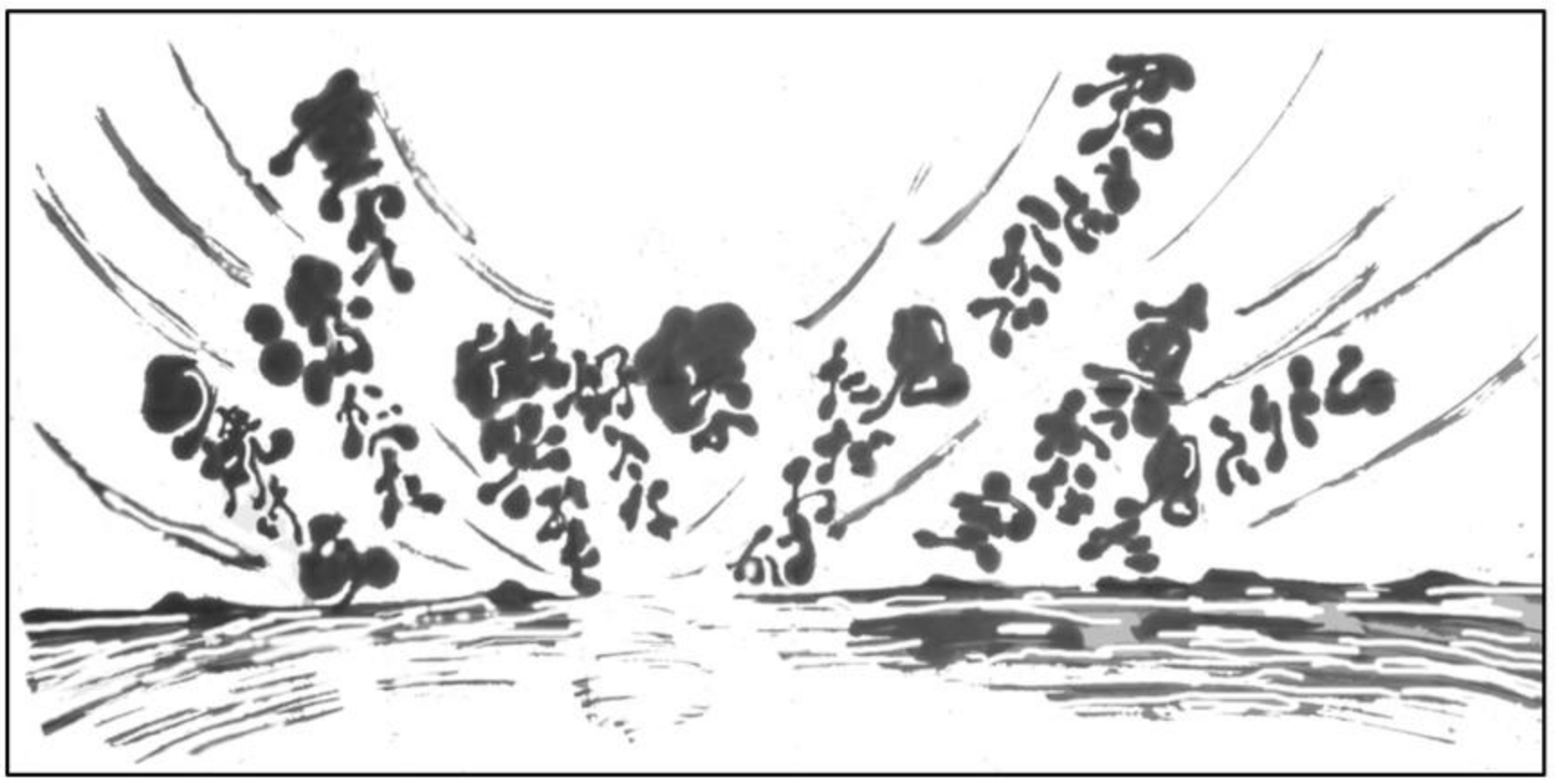
十五、杉本綾香

臨書　楷書　楮遂良『千字文』半切

「致雨露結爲霜金生麗水玉出崐崗」

嬉しい初作品です。初心者なりに試行錯誤しつつ、もがきつつ書きました。スタイリッシュな雰囲気の作品にしたかったのですが…字のバランスや細い線が難しかったです。ご批評よろしくお願いします。





十七、鈴木新人

創作　調和体　全紙横

『真っ赤な空を見たろうか』

「一人で見た真っ赤な空、
君もどこかで見ただろうか
僕の好きな微笑みを
重ねて見上げた夕焼け空」

BUMP　OF　CHICKEN の「真っ赤な空を見たろうか」を題材に調和体を書きました。やさしく、そして凛として見る空をスケール大きく描くことへの挑戦です。途中であらわれるベル（?）のような音を淡墨の点のにじみに見立ててみたのですが、うまく表現できているかははなはだ疑問です。曲を聞いたことがない人は、これを機に聴いてみるのもいいかもしれません。

十八、鈴木貴也

臨書　草書　王羲之『遠宦帖』半切

「子亦多遠宦足下兼懐並數問不老婦」

今回初めて草書に挑んでみました。楷書と行書の経験しか持っていなかったため、独特の線を持つ草書の臨書には一苦労しましたが、書いていて楽しく感じられました。ご批評よろしくお願いします。



十九、鈴木遼

臨書　楷書　趙孟頫『玄妙観重修三門記』半切

「文。深念前功。是嗇是究。時則有夫人」

四角のマスに次々と並ぶきれいな字に惹かれこの法帖を選びました。線の太さなどに気を付けながら書いたつもりです。ご批評よろしくお願いします。

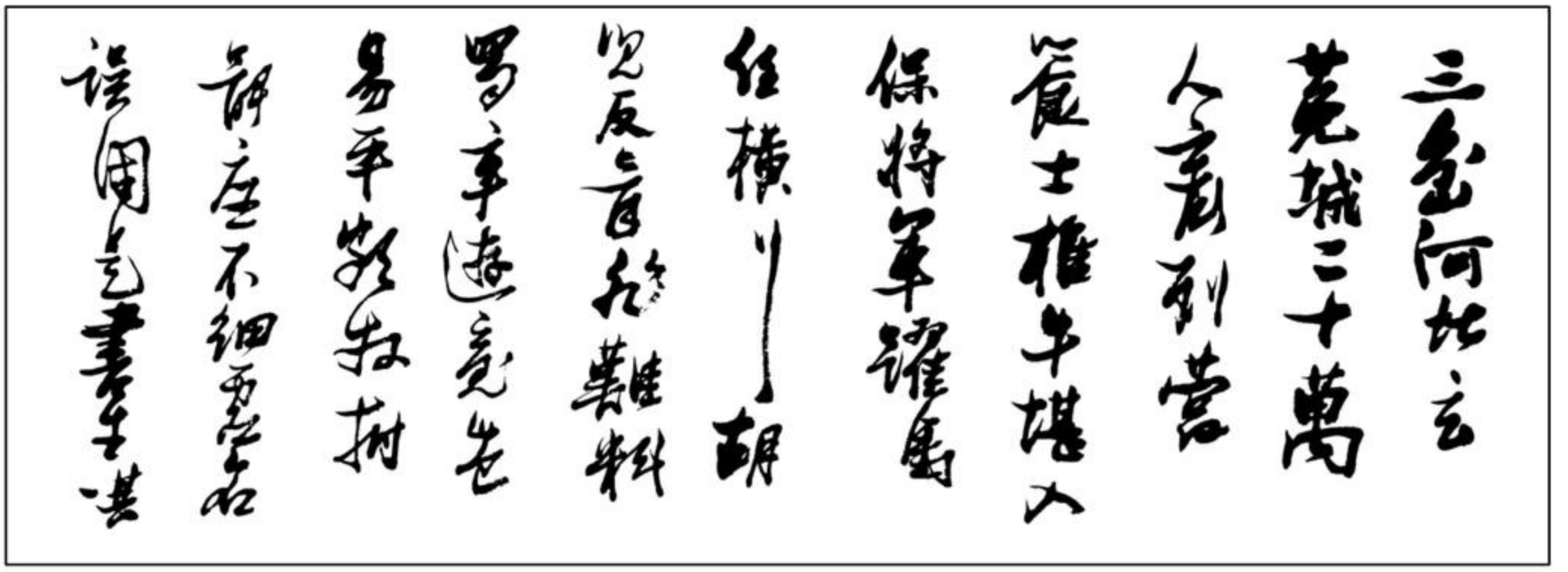


二十、高垣茜

臨書　行書

褚遂良『感遼事作六首巻』半切1.5枚分

「三岔河北玄菟城　二十萬人齊列営
饗士椎牛堪入保　将軍躍馬任横行
胡兒反骨非難料　蜀卒遊魂豈易平
頗牧拊髀憂不細　虚名誤國是書生
三韓烽火日縦横　其一
實藉公卿多廟算　太白秋高胡騎輕
恩深養士先皇帝　虚憑山海作關城
歎息詞人空膽氣　地重定都古北平
不知捫舌是譚兵　其二



学部生最後の作品。昔は頑張ることはすなわち力むことだと思い込んでいましたが、力を抜くことも大事だと思えるようになりました。（ただし抜くのは力であって気持ちではありません。）　作品にも表れている気がします。

二十一、武井友里恵
臨書　行書　王献之『姑比日帖〈快雪堂帖〉』半切
「審以服散未必得力耳比驎相聞故」
二回生から入部した私にとって、小作品以外では初めての作品になります。いろんな人から意見をいただきながらも、自分らしく仕上がった作品だと思います。臨書というには未熟すぎるかもしれませんが、ほんの少しでも気に入ってもらえたら嬉しいです。



二十二、多門千早
臨書　行書　李邕『李思訓碑』半切
「長史華陽縣開國公　贈寧州刺史諱」
二行作品に挑戦しました。文字と文字の空間の広さを揃えるのに苦労しました。また鋭い線質を出すのも難しかったです。ご批評よろしくお願いします。



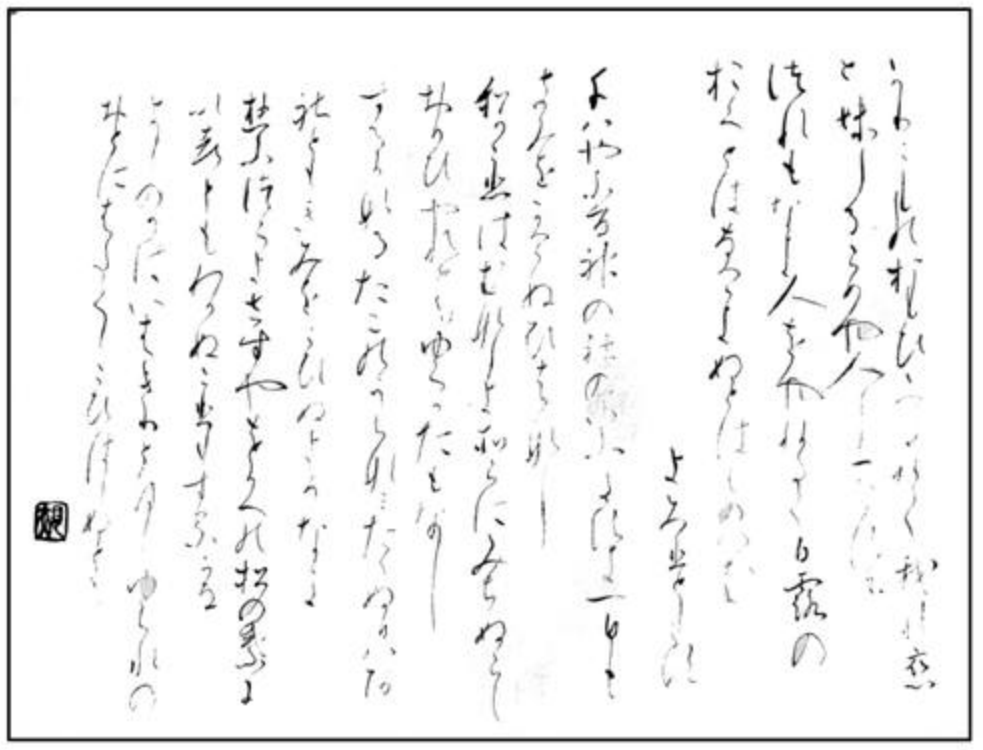
二十三、寺田実穂子
臨書　行書　歐陽詢『行書千字文』半切
「往秋收冬藏閏余成歲律呂調陽雲」
蔵や成などにある右下がりののびやかな画が気に入り選びました。全体的にシャキシャキとした雰囲気が出てたらいいです。ご批評お願いします。



二十四、時藤大典
臨書　かな『中務集』巻子
「ねのひ/のべにいでてけふひきつれば/ときわかぬまつのすえにもは/るはきにけり/いへのはなみるところ/の山のもみるべきものをわが/やどのはなをながめてひは/くれにけり/はなをおしむところ/ふぢのはなさくをみすてて/ゆくはるはうしろめたくやお/ぼえざるらん（以下略）」
中務集の始めの二枚と最後の二枚を臨書しました。西行らしい、スッキリと、かつゆるやかに変化する流れはとても難儀しましたが、今後かなのみならず漢字や調和体の作品を作る上でとても勉強になりました。

二十五、富崎友理子
臨書　楷書　顔真卿『多宝塔碑』半切
「厭俗自誓出家禮蔵探経法華在手」
顔真卿の書体の厳正で緊密な雰囲気に魅了されました。揺るぎのない力強い一点一画で構成される一つ一つの文字それぞれが、強靭な生命力を放っているように感じられます。私も一筆ごとに緊張感を持ち、厳格な気持ちで製作に取り組もうと努めました。





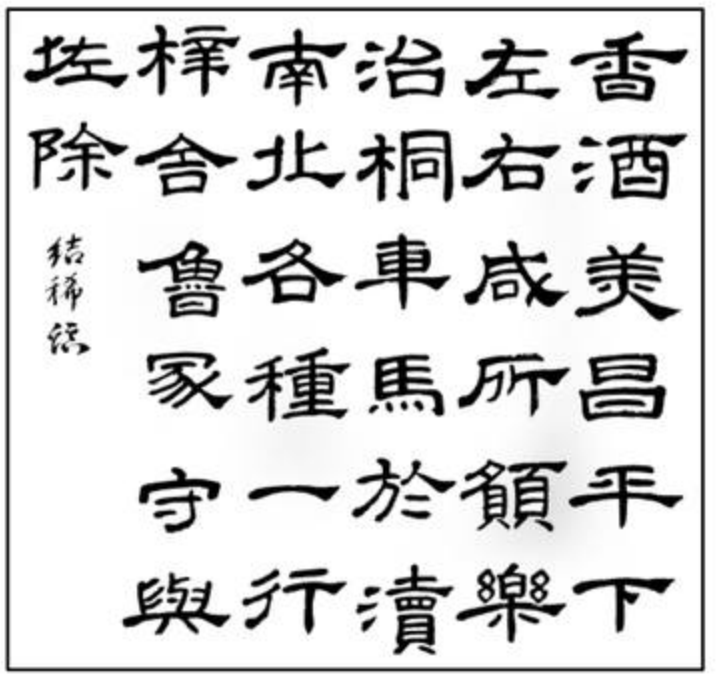
二十六、中田真規
臨書　かな『元永本古今集』半懐紙
「かりごものおもひみだれて我れ恋と
妹しるらめや人しつげずは
つれもなき人をやねたく白露のおくと
はなげきぬとはしのばむ
よみびとしらず（以下略）」
見どころが「や」である作品になっていれば・・・と思います。筆運びのスピードに苦心しました。ご批評よろしくお願い致します。

二十七、西村有希子
臨書　行書　董基昌『日月詩巻』半切
「仙人携我搴玉英壇上夜半東方明」
董基昌の臨書にリトライしました。筆を変えたり、構成を変えたりで非常に悩んだ作品ですが、その分いいものに仕上がっていると思い…たいです。



二十八、橋詰奈央
臨書　行書　王羲之『蘭亭序』半切
「永和九年歳在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也群賢畢至少長咸集」
漢字に挑戦したい、そんな思いで数年ぶりに書いた漢字作品です。全体的にスマートな臨書作品に仕上がるように練習をしてきましたが、一字一字は至らない所が多いと思います。どうかご批評よろしくお願いします。





二十九、藤井結稀

臨書　隷書『史晨後碑』全紙 1/2

「香酒美昌平下 左右咸所願樂 治桐車馬 南北各種一行 梓舍魯冢守與 佐徐」

今回は隷書の雰囲気に合わせて全紙 1/2 で書いてみました。隷書とは何なのかという問題にぶつかりながら一生懸命練習しました。まだその答えが見つかったわけではないので、ご批評宜しくお願いします。

三十、藤島愛子

臨書　隷書　呉熙載『隷書文語横披』全紙横

「歐陽永叔游長壽山。見苔華繡成四字。曰神井清之洞。中間流水潺々。界以青松朱扉。惟忠孝列儁居之。」

まだまだ練習量が足りないです。もっと研究していい作品にしていきたいです。



三十一、真殿 知佳

臨書　楷書　歐陽詢『九成宮醴泉銘』半切

「成之宮此則隋之仁壽宮也冠山抗殿絶壑爲池跨水架楹分巖竦闕高閣周建長廊」

すっきりとした格好いい感じを出せるように頑張りました。ご批評よろしくお願いします。

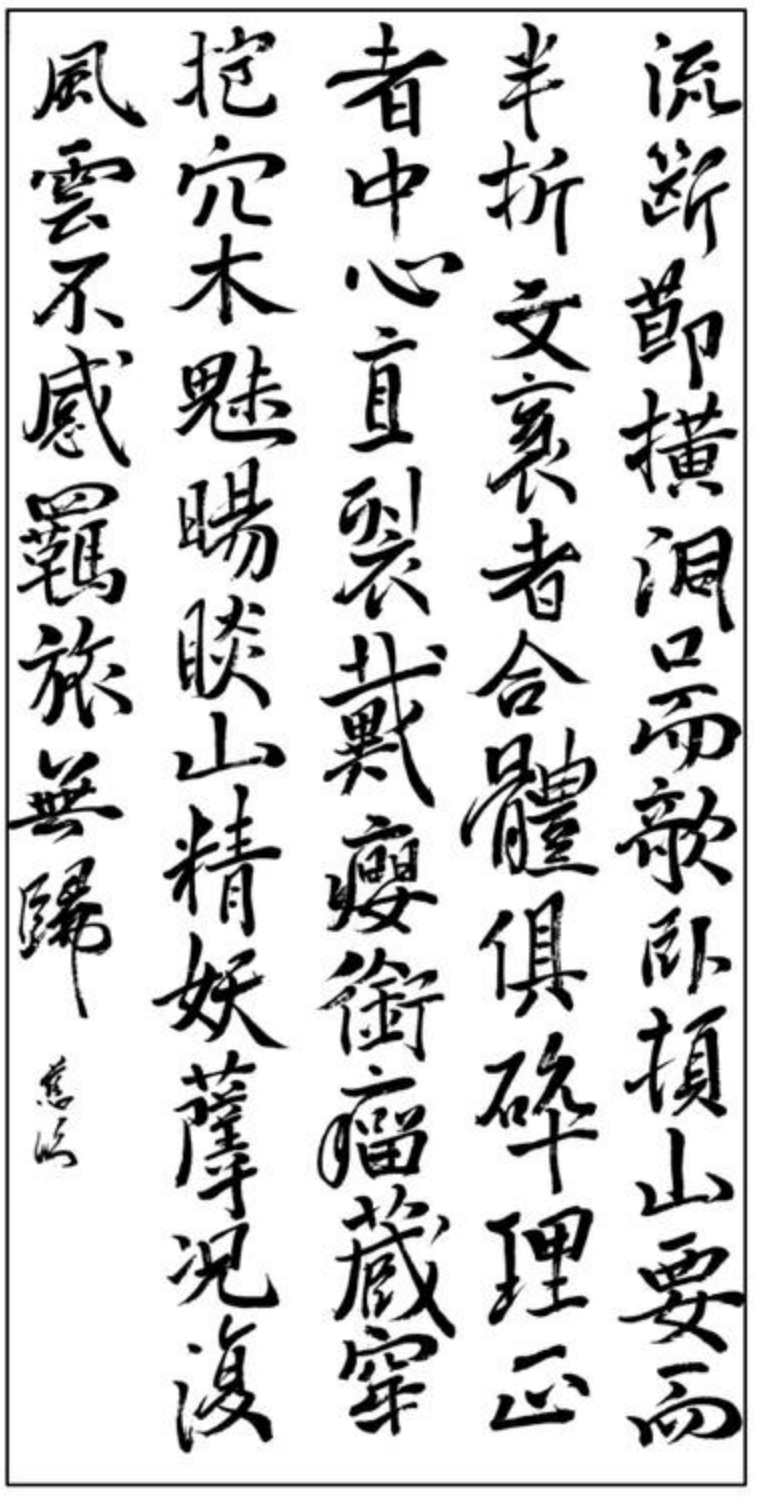


三十二、水谷慈

臨書　行書　褚遂良『枯樹賦』全紙

「流断節横洞口而歌臥頽山要而半折文衰者会體倶砕理正者中心宜裂載癭銜癰蔵穿抱穴木魅暘睒山精妖薩況復風雲不感羈旅無」

最初は綺麗で鋭い雰囲気に惹かれました。でもよく見るとアンバランスで重厚感のある文字で、なんて我儘な作品！？という印象に。我儘に、愉しんで書きました。ご批評のほど、よろしくお願いします。



三十三、宮本佳奈

創作　行書『陶淵明詩「飲酒其七」』全紙

「秋菊有佳色　裛露採其英　汎此忘憂物　遠我遺世情　一觴雖獨進
杯盡壺自傾　日入群動息　歸鳥趨林鳴　嘯傲東軒下　聊復得此生」

菊を浮かべてぼんやりお酒を飲んでいたら、いつの間にか日が暮れて酒の壺が空になった。という意味です。迷ったままの作品になってしまいました。

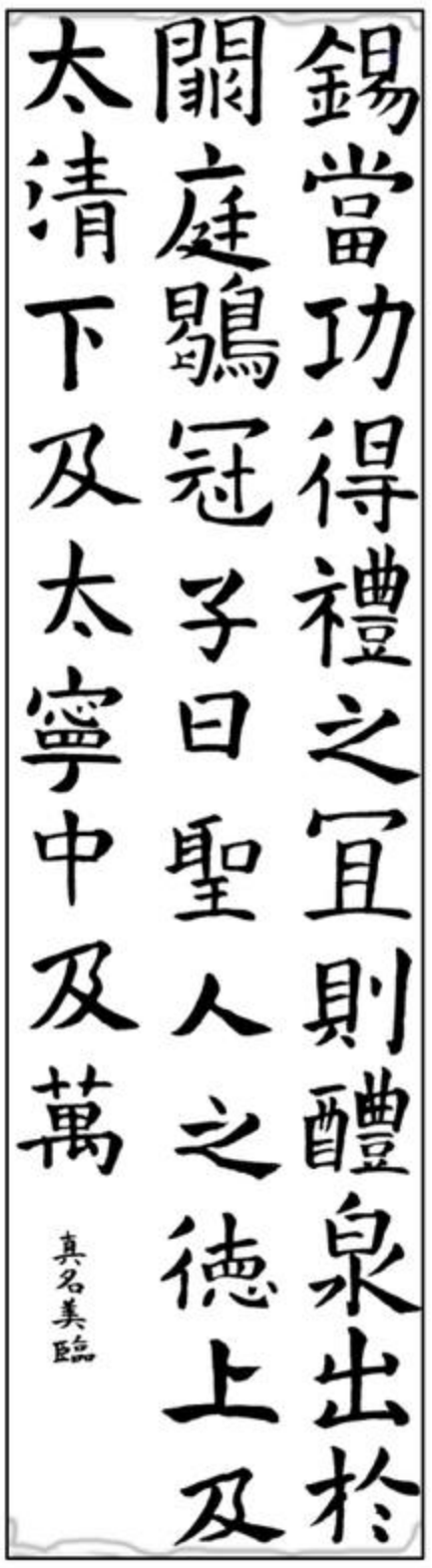


三十四、村田真名美

臨書　楷書　歐陽詢『九成宮醴泉銘』半切

「錫當功。得禮之宜。則醴泉出於闕庭。鵾冠子曰。聖人之德。上及太清。下及太寧。中及萬」

均整のとれた美しさに惹かれましたが、なかなか自分で表現できませんでした。ご批評よろしくお願いします。



三十五、森美幸

臨書　楷書　王羲之『建安帖〈澄清堂帖孫子本〉』半切

「慈蔭幽絶垂卅年永惟崩慕痛徹五内永」

文字の雰囲気が好きだからなんとなく、と臨書初挑戦で選んでみた書です。練習が足りず、満足ゆく作品が書けなかったことが心残りです。しかし、書道の楽しさを教えてくれたこの書には感謝しています。



三十六、山本大翔

臨書　行草『王献之尺牘集:王献之』半切

「遠爲當奈何尓豈不令念姉遠路不能」

人生2回目の出品です。「姉」の字に惹かれてこの箇所を選んだのですが、実力不足の為苦戦しました。御品評お願い致します。

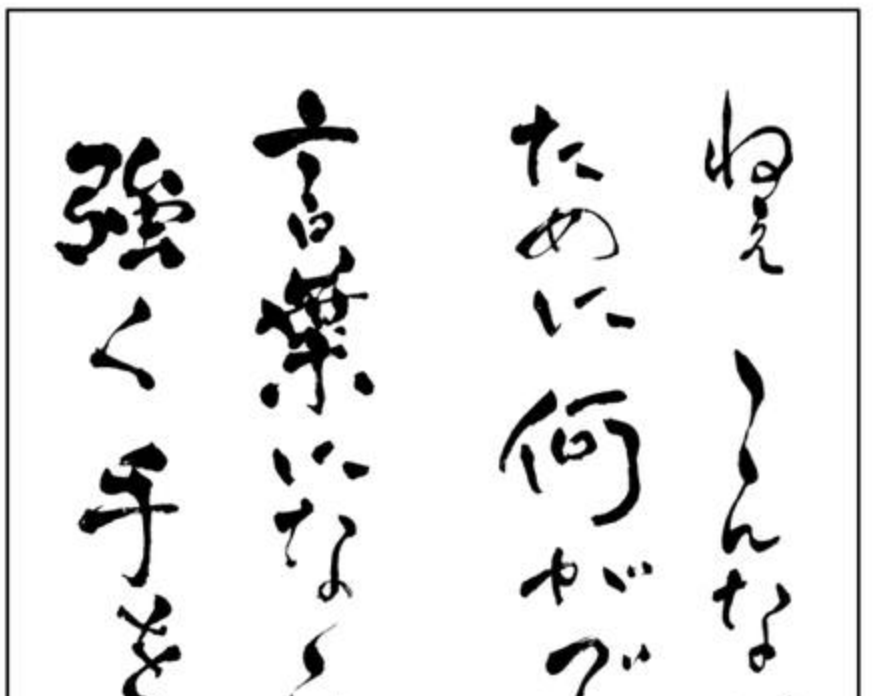


三十七、横山成基

創作　調和体『思いがかさなるその前に』全紙

「ねぇ こんな僕は キミのために 何ができるのかな
言葉にならない思いだけ 強く 手を握ろう」

平井堅さんの「思いがかさなるその前に」を書かせていただきました。歌詞から受け取るメッセージは人それぞれあるかと思いますが、僕自身は、「約束のない人生を、今という時間を、大切にしなければならない」と改めて気づかされ、今回作品にしました。

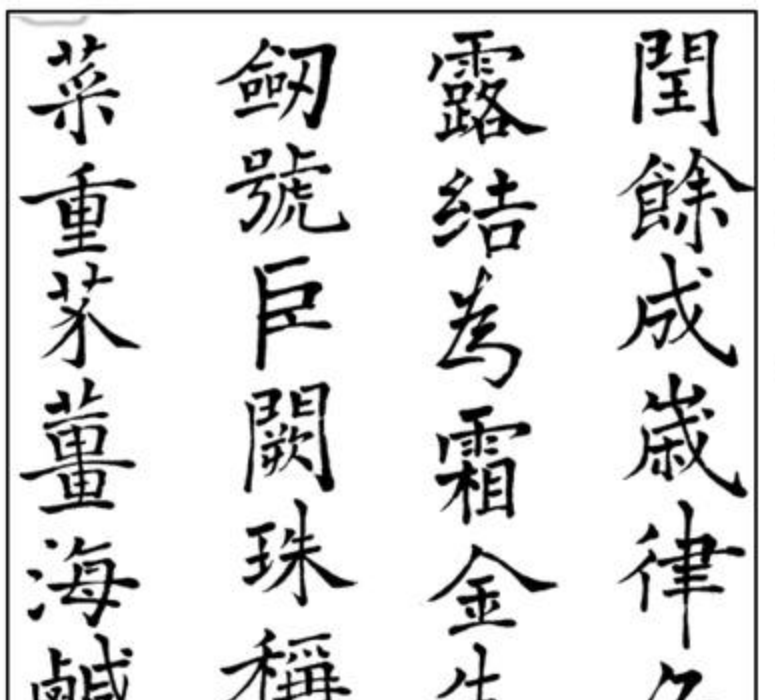


三十八、吉田梨沙

臨書　楷書　楮遂良『楷書千字文』全紙

「閏餘成歳律召調雲騰陽致雨露結爲霜金生麗水玉出崑崗劒號巨闕珠稱夜光果珎李柰菜重芥薑海鹹河澹鱗」

スッキリきれいに、かつ字に生命力を持たせることを目標にしました。一枚書くのにとにかく時間がかかります。作品にするのに一番抵抗を感じる楷書ですが、覚悟を決めて書きました。



三十九、渡辺健介

臨書　楷書　顔真卿『顔勤礼碑』半切

「名卿倜儻佶俛倫竝爲武官玄孫紘通義尉沒于蠻泉嗣孝義有吏道」

蚕頭燕尾の力強い右払いが書きたくて顔真卿の楷書にしました。楷書の作品を書くのは久しぶりで、練習の時間もあまり取れなかったので、字の大きさや並び方を整えるのに苦戦しました。どうぞご批評よろしくお願い致します。



四十、江﨑洋平

創作　草書『早秋山居』二尺×八尺

「山近覺寒早　草堂霜氣晴　樹彫窓有日　池滿水無聲　果落見猿過　葉乾聞鹿行　素琴機慮靜　空伴夜泉清」

最後はやはり二×八の三行。書道に悩まされ、鍛えられ、育まれた、そんな四年間でした。本当にありがとう。



四十一、柴田翔

臨書　行書　王羲之『蘭亭叙』二尺×八尺

「是日也、天朗氣清、惠風和暢。仰觀宇宙之大、俯察品類之盛。所以遊目騁懷、足以極視聽之娯。信可樂也。」

王羲之が、曲水の宴でほろ酔い気分のまま書いたと言われる『蘭亭序』。そんな《率意》の書の美しさを再現しようと、素面の自分が一点一画を慎重に、《作意》的に模してゆく作業は、ある種の矛盾を孕んでいるような気がしてなりませんでした。それでも、そうした葛藤の中で大いに苦しんだ経験が、今後の作品制作の上で糧になると信じたいです。仮初にも自信作とは言い難い仕上がりですが、『蘭亭序』の持つ独特な気品や、線の流麗さが表現出来ていたら幸いです。ご批評、ご感想など御座いましたら、是非ともお聞かせ下さい。




別去西江上江灘寓短亭
望天雲共白思子岫皆青
寺内焚脛篋人間老歲壘
疇能分丈室百次指穠螢
甲申冬夜書王鐸
天目僧


南窗背燈坐風霰暗粉寂
冥深村衣殘雁雪中聞
事事

四十二、中川和也
創作　楷書・草書『白居易詩―風霰―』二尺×八尺
「南窗背燈坐風霰暗粉々寂莫深村衣残雁雪中聞（辛卯葉月白居易詩於河庵和也書）」
白居易の詩を、北魏の龍門・張猛龍碑の雰囲気で書く。落款は気楽に傅山のぐるぐるとした草書をきどってみる。楷書―草書の調和は成ったか。

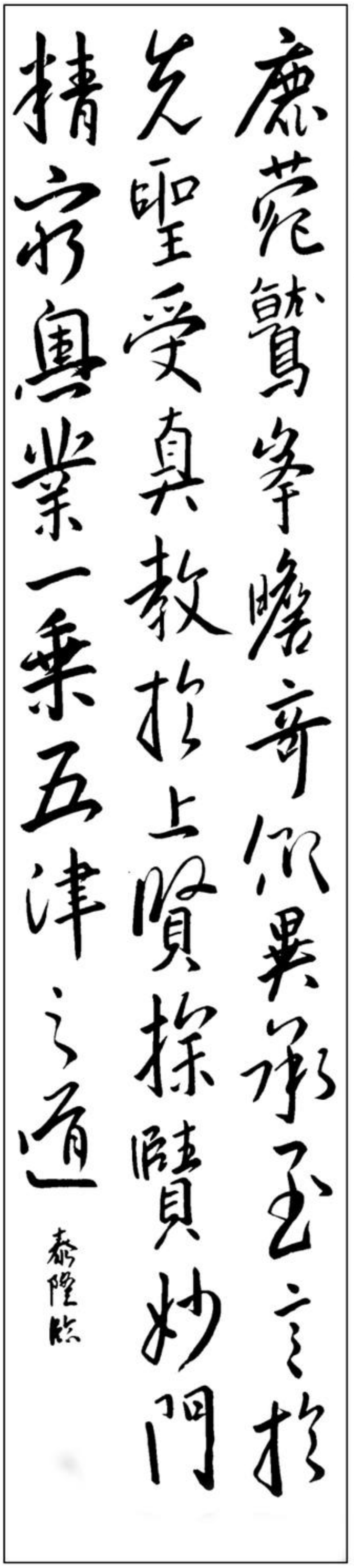
四十三、檜山葵
臨書　行書『寄金陵天目僧詩』二尺×八尺
「別去西江上、江灘寓短亭。望天雲共白、思子岫皆青。寺内焚脛篋、人間老歳壘(星)。疇能分丈室、百次指穠蛍。　寄金陵天目僧、甲申冬夜書王鐸」
人生初めての二八作品です！王鐸にも初挑戦でとても苦労しましたが、楽しかったです。一つひとつはアンバランスでも全体になると調和がとれている感じが表現できていると嬉しいです。

四十四、平野泰隆

臨書　行書　王羲之『集字聖教序』二尺×八尺

「鹿苑鷲峯瞻奇仰異承至言於先聖受眞教於上賢探賾妙門精窮奥業一乗五律之道」

大学に入って書道を始め、最初の作品でいきなりの二八作品です。現在でも無謀だった気もしますが、大きな紙に大きな文字を書くのは好きなので、楽しみながら書くことはできたと思います。字が大きいので、紙全体の見せ方に加え、個々の字の精度も上げようと思いましたが、まだまだ程遠いかと思います。ご批評のほどよろしくお願いします。

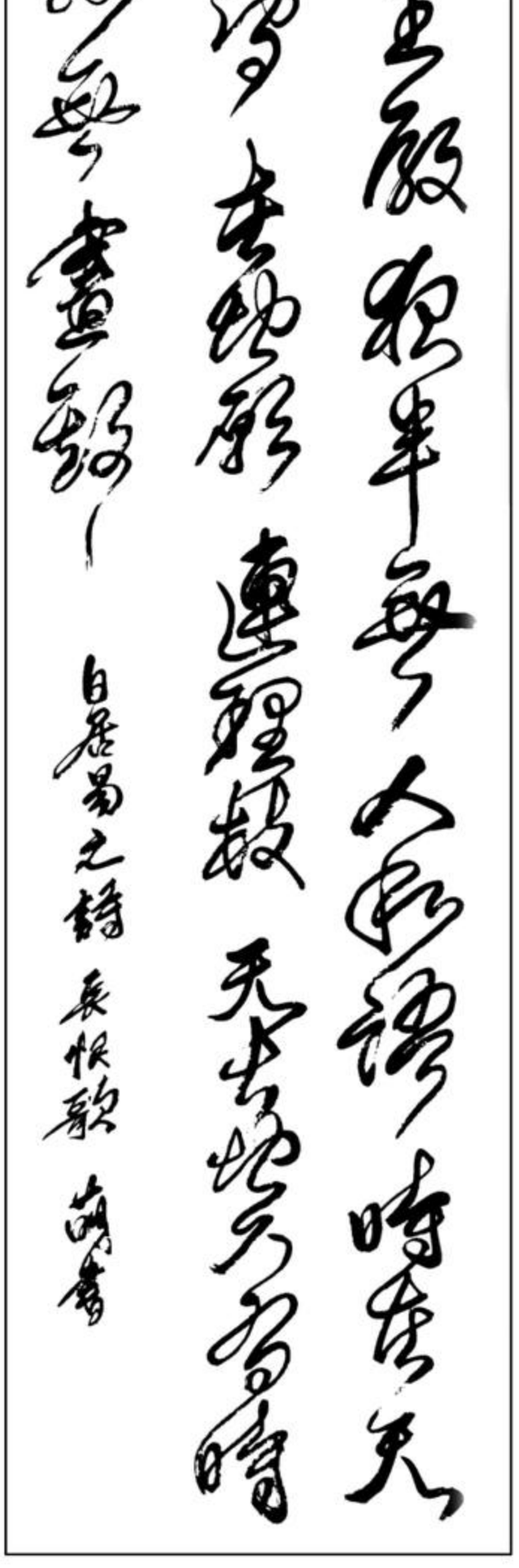


四十五、山口萌

創作　行草『長恨歌』二尺×八尺

「七月七日長生殿夜半無人私語時在天願為比翼鳥在地願為連理枝天長地久有時〇此恨綿綿無〇期」

去年の今頃から傅山っぽいと言われ続けた字で創作をしたいと思って書きました。やっぱり楽しくて離れがたくなりそうです笑　題材の長恨歌のこの部分は叙事詩のような長い長い詩の最後、やっと見つけた楊貴妃から玄宗帝への愛が綴られているところです。



四十六、和田卓也

臨書　行書『五言律詩―郊遊―』二尺×八尺

「不悟黄河面。見山有許容。六經小(閒)跳躍。語嶽大遭逢。雲膽悦(落)韓愈。煙心悦寧封。斯知華嶺葉。定不是癡龍。聞黄石齋歸塗遍游名山妬賦。似暮齋老先生正之。弟元璐。」

「展覧会に足を運んだいただけた方に、何か一つ『来て良かった』と思っていただける展覧会にしたい」私が行き着いたのは、己の力量もわきまえず馬鹿馬鹿しくもそんな大先輩の言葉を実現してやろうという野心を込め、締切ギリギリ(てか過ぎてる)という京都大学書道部の伝統を引き継いだこの作品です。



四十七、脇本啓太

創作　木簡（行書・隷書）『波乱万丈』二尺×八尺

「波亂萬丈」

求めるような荒削りな表現は、今の自分の力量では「粗雑」で片付けられてしまうかもしれない。それでも踏み込もうと決めたのは、挑戦者であり続けたいという僕の意地です。



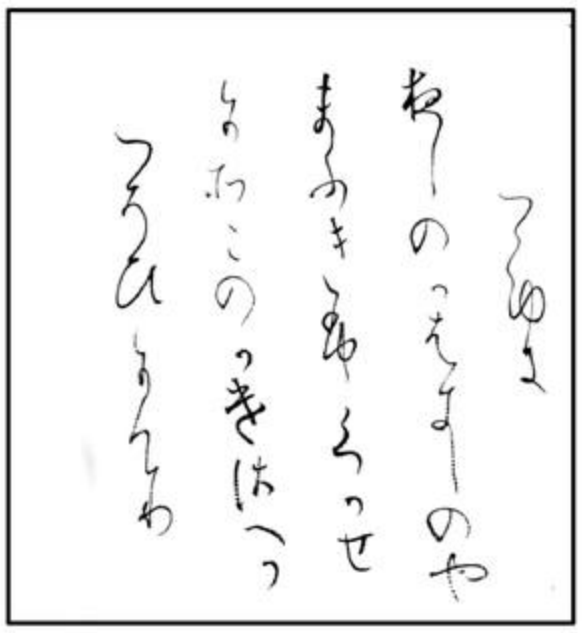
—小作品—

池田亜由美

臨書　かな『寸松庵色紙』色紙

「としゆき　あきはぎの花さきにけりたかさごのをのへにいまやしかはなくらん
つらゆき　よしのがはきしのやまぶきふかげさへうつろひにけり」

小さい紙面にスケールの大きい世界を表現することを目標にしました。





糸井健太

創作　行書『歳月』色紙

「歳月」

年中師も走るような時節柄ですが、鼻腔を潜らせて、あたたい気持ちになっていただければ嬉しいです。

井上莉穂

臨書　かな『高野切』『香紙切』色紙2枚

高野切：今まで避けてきた仮名の基本的な手本とも呼べる高野切を第一種、第二種、第三種とそれぞれ書きました。批評お願いします。

香紙切：今まで書いたことのない作品を挑戦したいということで、香紙切を選びました。香紙切の大胆さ、自由奔放さを表現できていればいいなと思います。批評お願いします。

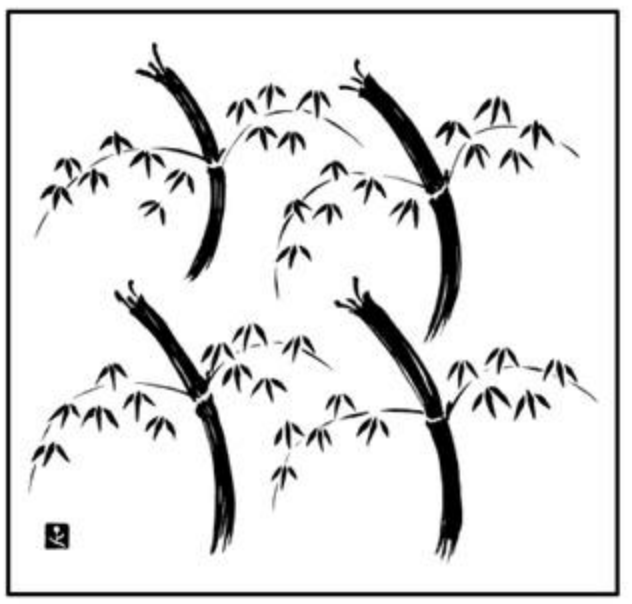




植野正嗣

創作『臨画　工夫庵座布団』色紙

書道部が部会をするときの共用室にある座布団の柄です。デュシャンの「泉」に近い意図も微かにありますが、漢字の形の響き合いや空間配置などに応用出来そうな要素もあるように思いました。内輪ネタに止まらない墨絵になっていたら幸いです。



岡田卓也

創作　楷書『錦秋』色紙

「錦秋」

紅葉が錦の織物のように美しい秋。京都で迎える三度目の秋はまさしくこの錦秋であったように思います。



奥山優

創作　行書『希望』葉書サイズ

「希望」

いいニュースが少ない今日このごろ、いを込めて書きました。



尾崎由布子

創作　漢字かな交じり『ユキノウタ』半切 1/3

「今心は清く光る」

いつもいつも字が大きくなってしまうので、最初のうちは今度こそ小さい字で…！と思っていましたが、いつの間にかやらいつも通りに。慣れないことはするものじゃないなと思いつつも、ちょっぴり悔しいです。精進します。

永溝聡士
模刻　奚岡『龍尾山房』色紙(中)
「龍尾山房」
がんばりました。良ければ見てやって下さい。



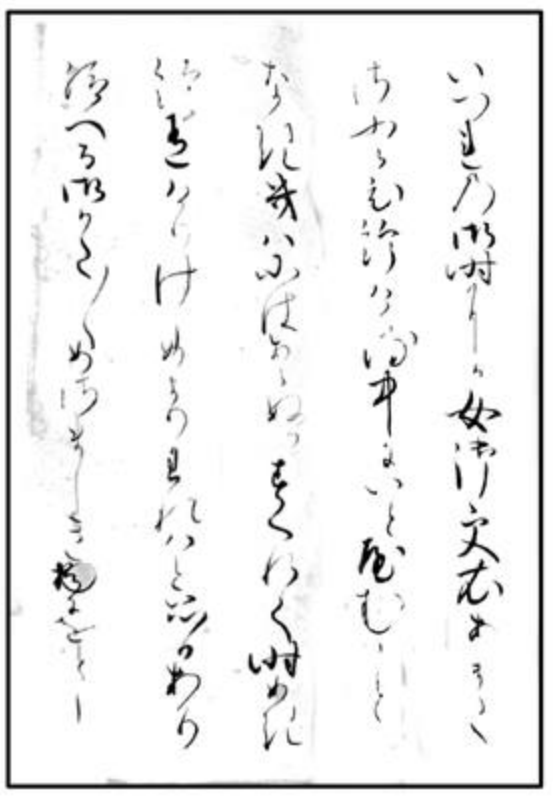
林田悠佳
創作　調和体『ねじまき鳥クロニクル』色紙
「僕の側にかける人間はこのあたりには誰もいないかもしれない」と僕は小さなさっぱりとした声でそこにいる誰かに向かって言った。」
村上春樹「ねじまき鳥クロニクル」第二部の終わり、主人公岡田亨の独白部分です。理想と自分の実力の落差がもどかしいですが、主人公（と私）の決意を込めて書きました。

僕の側に賭ける人間は
このあたりには誰も
いないかもしれない。
「かまわない」と僕は小さな
さっぱりとした声で
そこにいる誰かに向かって
言った。

仁位元信
創作　行書『不惑』小さめの縦長色紙
「不惑」
来年から大学3回生になるにあたり、自分で決めたことはやり遂げるという気持ちをこめこの字を書きました。小作品への挑戦でしたが、どのように表現するかという難しさを実感しただただ苦戦するばかりでした。ただ十代で「不惑」を達成できるかはまだ分かりません．．．



舛井 千草
創作　かな『源氏物語 桐壺』和装本
「いつれの御時にか女御更衣あまたさふらひ給ひけるなかにいとやむことなきはにはあらねかすくれて時めき給ふありけり」
学部生として最後の作品制作。色々な縁によって形になった作品で、3年半の様々な想いを筆に込めました。とはいえ特に構えず自由気ままに楽しんで書けました。少しでも仮名の雅さを感じて頂ければ幸いです。



米田直紀

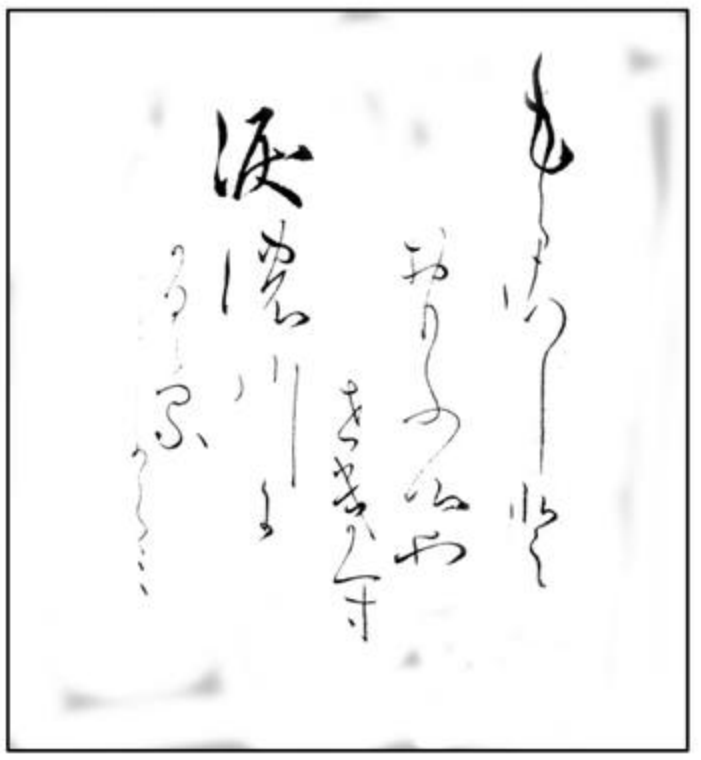
臨書　かな　和歌二首『尾形宗謙和歌巻より』色紙2枚

「は(八)るは(盤)な(奈)をこ(古)ぬ人また(多)じ花をの(乃)み(三)心の(乃)とが(可)に(耳)みてを(越)くらさむ(無)

もらさ(佐)じとおも(毛)ふ心やせ(世)き(幾)か(可)へす(寸)涙の川に(尓)か(可)く(具)る(累)しが(可)らみ(三)」

図書館の書庫で、昔の時刻表を見ながらニヤニヤしたついでに見つけた作品です。一本の筆で書いたとは思えないメリハリのある線に一目惚れしました。そこが表現出来ていれば幸いです。





＊東佳央里

創作　『アオイベンチ』ハガキ

「コノコエガ　カレルクライニ　キミニスキト　イエバヨカッタ」

篆刻でカタカナを彫ってみたいという思いがずっとあり、今回青い印泥を使いたかったので、サスケの『青いベンチ』のサビの一部を彫りました。切なさの中にある「スキ」という強い想いを表現できていれば幸いです。

＊小松聡子

創作　隷書『夢』158×227mm

「夢」

毎日書道展で出会ってからずっとやりたかった刻字に挑戦しました。陽刻にしてしまった自分をぶん殴りたくなりながらも、なんとか完成させることができてとてもほっとしています。ご批評・ご感想をよろしくお願いします。



This book was
made by the LeME